

残りの12事業は完了までに至っていませんが、全事業で着手済みになっていますので、主要事業の進捗状況をお知らせします。

浸水被害の解消のため 六丁四反水路等の整備

六丁四反水路は、親野井地区から船形地区へ通じる全長7.7キロメートルの水路で、昭和40年代以降の宅地造成に伴い、水路に流れ込む水量が増し、夕立程度の雨でさえ被害をもたらすようになっていました。



排水ポンプ設置で東宝珠花を中心とした浸水被害を大きく改善

平成15年度から、暫定調整池の緊急工事や水路の拡幅、道路のかさ上げ工事などを実施しましたが、16年の台風による記録的な豪雨で、水路周辺の広い範囲が浸水に見舞われたため、19年度末には、国と共同して排水ポンプ施設を設置しました。水路の水位が上昇した時には六丁四反水路の上流部の雨水をポンプで江戸川へ排水します。その能力は16年の台風22号規模の雨量に対応できる設計です。25年現在、67パーセントが完了し、水路は27年度、調整池は35年



これまで未整備だった駅前広場を拡張し車の流れと歩行者を分離し安全な歩行者空間を確保

道路の冠水が減りました

木岡ヶ瀬在住 鈴木 敏明さん

田んぼや畑が宅地に造成されてきた頃から、大雨でなくても、道路が冠水するように困っていました。

合併してから、六丁四反水路の整備が始まり、下流部を拡げる工事をした後は、道路の冠水は減ってきましたね。しかし、平成20年の大雨の時には、



度完成を目指していきます。

同じく閑宿地域の浸水対策として進めている、柏寺排水路の整備は、79パーセントが完了し、27年度の完成見込みです。

川間駅北口駅前広場を 1.5倍の広さに拡大

川間駅は、市内6駅の中で最も乗降客数が多く、野田地域北部と閑宿地域の多くの方が利用する駅です。平成23年には、東武鉄道(株)に整備費用を補助し、駅のトイレの多機能化やスロープ設置、自由通路に3基のエレベーターを新設するなど、高齢者や障がいのある方などが移動に困らない施設整備

を行いました。

今後は、北口駅前広場の整備を27年度までに進めます。現在整備に必要な用地は80パーセントを取得しています。計画では、現在よりも1.5倍ほどの広さ(約4千500平方メートル)になる予定で、バスやタクシー、一般車の乗降場を分離し安全に利用いただけるようになります。

中心市街地の活性化と 愛宕駅周辺のまちづくり

平成24年度には、愛宕西駅前線の整備が完了し、26年度に東駅前線、東口駅前広場が整備完了することや、西口駅前広場の事